

日野町告示第34号

令和4年第6回日野町議会臨時会を次のとおり招集する。

令和4年6月17日

日野町長 塚 田 淳 一

1. 期 日 令和4年6月23日
 2. 場 所 日野町議会議場
 3. 付議事件 令和4年度日野町一般会計補正予算（第3号）
-

○開会日に応招した議員

中 山 法 貴	梅 林 敏 彦
金 川 守 仁	松 尾 信 孝
中 原 信 男	松 本 利 秋
安 達 幸 博	佐々木 求
竹 永 明 文	小 谷 博 徳

○応招しなかった議員

な し

第6回 日野町議会臨時会会議録（第1日）

令和4年6月23日（木曜日）

議事日程

令和4年6月23日 午前10時開会

- 日程第1 会議録署名議員の指名
日程第2 会期の決定
日程第3 議案第38号 令和4年度日野町一般会計補正予算（第3号）（町長）
-

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
日程第2 会期の決定
日程第3 議案第38号 令和4年度日野町一般会計補正予算（第3号）（町長）
-

出席議員（10名）

1番 中山 法 貴	2番 梅 林 敏 彦
3番 金 川 守 仁	4番 松 尾 信 孝
5番 中 原 信 男	6番 松 本 利 秋
7番 安 達 幸 博	8番 佐々木 求
9番 竹 永 明 文	10番 小 谷 博 徳

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 飛 田 朋 伸 書記 ————— 入 澤 眞 人
書記 ————— 三 好 達 也

説明のため出席した者の職氏名

町長	—————	埴田淳一	副町長	—————	音田守
教育長	—————	生田求	総務課長	—————	景山政之
住民課長兼会計管理者	——	荒木憲男	企画政策課長	—————	神崎猛
健康福祉課長	—————	住田秀樹	産業振興課長	—————	五百川和久
建設水道課長	—————	音田雄一郎	教育課長	—————	遠藤律子

午前10時00分開会

○議長（小谷 博徳君） おはようございます。ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和4年第6回日野町議会臨時会を開会いたします。

本日の臨時会は、マスク着用や換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じて進めます。

また、出席議員には、タブレット端末機の使用を例規確認のため許可しておりますので、御了承ください。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（小谷 博徳君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本臨時会の会議録署名議員には、会議規則第125条の規定により、7番、安達幸博議員、8番、佐々木求議員の2名を指名いたします。

日程第2 会期の決定

○議長（小谷 博徳君） 日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。本臨時会の会期は、本日の1日間にいたしたいと思っております。これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 異議なしと認めます。よって、本臨時会の会期は、本日の1日間と決定いたしました。

日程第3 議案第38号

○議長（小谷 博徳君） 日程第3、議案第38号、令和4年度日野町一般会計補正予算（第3号）を議題といたします。

提出者の説明を求めます。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ただいま上程いただきました議案第38号、令和4年度日野町一般会計補正予算（第3号）について御説明申し上げます。議案書を御覧いただきたいと思ひます。

この補正予算は、歳入歳出それぞれ1,496万8,000円を追加し、予算総額を34億8,700万1,000円とするものでございます。

補正額等は、2ページ、第1表、歳入歳出予算補正を御覧いただきたいと思ひます。

このたびの補正予算では、新型コロナウイルス感染症の影響や、今年2月に始まったウクライナ紛争などを発端とした原油価格の高騰、輸入品の価格高騰などにより様々なサービスが値上げされる状況に置かれている中、地域の暮らしを守るを主眼に置き、住民全ての方の生活を応援する事業として現在予算措置されております、町民1人当たり1万円分を町内店舗で使える商品券を交付する日野町暮らし応援商品券事業に、今回1人当たり5,000円分を追加し1万5,000円分とするものでございます。

詳細につきましては総務課長から説明させますので、御審議いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 議案第38号、令和4年度日野町一般会計補正予算（第3号）について御説明いたします。予算書3ページの歳入歳出補正予算事項別明細書は御覧いただきたいと思ひます。

4ページ、歳入につきまして、国庫支出金、国庫補助金、総務費補助金は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金として、1,292万3,000円の増額。繰入金、基金繰入金、財政調整基金繰入金は、本補正の財源として204万5,000円の増額です。

次に、歳出について御説明いたします。商工費、商工費、商工総務費は、1,496万8,000円の増額です。委託料、負担金、補助及び交付金は、日野町暮らし応援商品券事業として、町民1人当たり5,000円分の地域商品券を今回追加交付するためにかかる費用を計上しています。

以上が、一般会計補正予算（第3号）の提案説明でございます。

○議長（小谷 博徳君） 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑は、歳入歳出一括で行いたいと思います。質疑。

4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 最初に確認ですが、歳入の国庫補助金として1,292万3,000円計上されております。これ間違いなかったらそれによろしいんですけど、6月の定例会で承認されなかったDX関連の事業に充当されてた国庫補助金と同額であるというふうに理解してよろしいんですね。その上で、お伺いいたします。コロナ関連の国庫補助金のことについていま一つよく分からないんですが、なぜかといいますと、先週木曜日に、一応このDX関連の部分は修正動議が出まして、不採用ということになったわけですけど、それから数日後の、昨日の全協で、同額が国庫補助金ということで、全く違う事業の充当ということで出てきてるわけなんですけど、まず、このコロナ対応の、なぜこの時期にこんなに急いで出なきゃいけないかということについて、私もいま一つちょっと理解が、この国庫補助金の制度っていいですか、タイミングとかそういうことも含めて理解ができないので、ちょっとまずそここのところの、これに充当する国庫補助金というものの制度についてお伺いしたいというのと、もう一つ、本日上程されたこの事案につきまして、案件について、とにかくお金があるわけだということであれば、どういう、何ていいますか、執行部内での議論を得て、本日この全く違う事業に、事案に対して同額が充当されてこの事案が出てきたのか、そこら辺のことについて、まず御説明いただきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんから、2点だと思いますけれども、共通してるのかなっていうふうに、その2点は、思います。

6月定例会で御提案させていただきました一部の事業につきまして、修正動議が出てそういう結果になったんですけども、コロナ関連の地方創生交付金、これはコロナの感染防止対策であるとか、経済対策であるとか、新しい生活様式を取り入れる、そういう、どういうんですか、幅広に使えるものでございます。そういった中で、どういうんですかね、DX、デジタル化についてはもう少し優先度があるんじゃないかっていうようなお考えが議会のほうから示されて、振り返ったり、さらには現下の経済環境、そういったものをしんしゃくしますと、本当に物が高くなっている、いろんな物が高くなってる、さらにはそれがさらに高くなるっていう値上げの情勢が続いている、そういった中で、本当に住民の方の生活、我々の生活にもすごく影響してくる、そういうことが容易に想定される状況でございます。そういったことも踏まえて、役場庁舎中の管理職集まって、このコロナ関連っていうか、地方創生臨時交付金の使途についていろいろ検討を

させていただきました。やはり、今、どういうんですか、間髪を置かずに、やはり全ての住民の方に対してこういうことをしたほうが景気の底支え、そういったことにもつながるし、本当に暮らしを守るためにも必要だなんていうことで、いろいろな検討をさせていただいたんですけども、これが今一番有力であるっていうことで今御提案させていただくところでございます。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 一つちょっとお答えいただいてなかったのは、先週の今日ということで、これ、ある種の時間的な制約がある中でこの補助金についての使途について、そこんところについてお答えいただいてなかったように思うんで、ちょっとこれカウントしないで。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 先ほども答えたんですけども、経済環境っていうのが本当にすごいスピードで変わってきてます。そして、いろいろな経済、物価高騰っていうのが毎日のように叫ばれてますし、先ほど言いましたように、値上げの予告っていうのもどんどんどん出てきてます。そういう状況だからこそ早めに対応しないといけない、この交付金の本来のものを早く発現させないといけない、そういう気持ちでございます。

○議長（小谷 博徳君） 4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 一応御説明はいただきました。その上で、じゃあ追加、つまり、これいついつまでに、例えば6月中に申請しなきゃもう駄目だとかって、そういうことではないわけですね。だけど当然のことながら、目的からして早いほうがいいということをお説明いただいたと思います。その上で、違ったら訂正していただいたら、ちょっと私も3回しか質問できないっていうんで一つあれですから。前回も同じようにこういう商品券と申しますか、暮らしを応援する商品券が出されたわけなんですけど、これについての検証が、今回この追加で1万円が1万5,000円になった、それなりのお考えの上でやられてるわけだと思うんですが、この商品券配布っていうのがどれだけ効果があるのかということについての検証ということの一つとしてお伺いしたいんですが、前回の検証の中で、まずどれぐらい使用されたか、パーセントで利用率がどれぐらいあったのかということ、それから業種別にどういう業種にどれぐらい使われたのかということをお説明いただけますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 大きく分けて2つの御質問をいただいたと思います。

1つは、この交付金の手続のスケジュールっていうようなことだと思います。今、この交付金は内示をいただいている段階ですので、当然計画を出すとか申請をしていかないといけないって

う手続がございます。その辺は、あと企画政策のほうから補足させます。

もう一つ、過年度にこの類似したっていうか、商品券のどのくらい町民の方が活用されたのか、そしてその活用先の業種、産業分類よりも小さい分類の、業種別分かるかな、じゃあ使用率、業種別については産業振興課長のほうから答えさせます。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 御説明いたします。

県のほうに提出する計画書の締切りは、7月15日になっていたと思います。町長が申し上げましたとおり、住民の生活を守るということで今回取り急ぎ提案させていただいたんですけれども、そちらの7月15日のほうも若干時間的な余裕がないというようなところでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 五百川産業振興課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の御質問にお答えいたします。

まず、直近でございます商品券の使用率についてお答えいたします。使用率のほうは直近97.6%、令和3年度に発行いたしました商品券のほう、97.6%でございました。

そして、どのような店舗でということ、どのような業種でということでございますが、実際には、令和3年度のこの暮らし応援商品券は63店舗で使用できるようにまず想定というか申込みがありましたので、63店舗で使用できるように想定をしました。その中で、飲食店、あとはお酒を扱っているお店、あとは小売の店舗、理美容、クリーニング、ガソリンスタンド、あと食料品、生活用品店、薬局ですとか自動車販売、その他ということで業種を分かれておりました。その中で、まず主立ったところといたしましては、やはり小売店での使用が多うございました。そのあと、飲食店での利用もございます。今、上位のほうから見てまいりますと、やはり小売店ですとか、あとは飲食店ということが並んできております。個別の店舗名等は少しちょっと控えさせていただきたいと思いますが、皆様それぞれで町内の業種のほうで使用をされておられます。産業振興課と、担当課といたしましては、より広い店舗で使っていただけるように、この暮らし応援商品券の取扱店を増やしていくこと、そして利用について町民の皆様に積極的に広報をしてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） ほかにありませんか。

7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 私の質問いろいろあるんですが、先ほどの7月15日のそのお答え来たのでそれからお尋ね、新たに思った疑問でありますけれども。これは当然、先ほど町長が

言われた内示で、今、三千幾らでしたかな、日野町に来てるのは内示ですよ。それが、交付決定を受けるためには、国にこんな臨時創生交付金をどのように使うかというのを国に提出しなければならない。これ一回限りですか、この7月15日を逃したらもう、例えばこの1,292万は今回使えなくなる、例えば極端な話、否決されて使えなくなったとしたら、もう7月15日が最終期限ですか、そこ、お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 今後、追加交付とかがあれば話は別なんですけれども、取りあえず今のところは、7月15日までに出すものが現在のところの最終案になるということでございます。

○議長（小谷 博徳君） 安達議員、3問ルールですので、考えて。

○議員（7番 安達 幸博君） ぱっぱっと言います。

○議長（小谷 博徳君） 安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 一々そのお答えに反応したら、先ほど議長が心配していただきました3問ルールにはまってしまって、後の本当の私の質問ができなくなるんで。あわせて、べべっと1回の質問のとき言いますからね、ほかの課長、もし自分だと思えばメモしといてください。

この7月15日のルールは、私が調べた範疇ではまだあるんですよ。先ほどの答弁は、またコロナ交付金が特別に来たら別ですけど、今回はもうこれが最後ですって聞こえるんですけど、そうじゃないんですよ、よく通達の文章見てくださいよ。私も同じように通達の文章を、このたびの6月補正のときからいろいろと私なりに勉強してもらいましたが、この7月15日は、県がまとめるので県には15日なんだけど、国には7月の29日ですよ、金曜日になるので12時までにメールできちんと送ってください、郵送ではいけません、メールで送ってくださいまで書いてある。そして、これが最後でないの、まだ日にちは決まってないけれども、もう一度提出の時期を言いますので、早く使いたい人はこの7月に出してください。いわゆる、早く交付決定をしてお金をもらいたい人は、この時期を逃したらいけませんよっていう通達なんです。まだまだあるんですよ、余裕があるということだけを指摘します。これ、間違いだったら総務課長、訂正してくださいよ。

そこで、本来の私の質問に行きますが、6月の補正のときに、総務課長に聞きますよ、いいですか。この1万円の商品券のときに2,091万1,000円がこの臨時交付金でなりました。それで、一般財源を1,033万4,000円を使うというのが6月補正でした。一般財源とい

うのは、いわゆる貯金を取り崩してこれに充てるということでありまして、このとき私は質問をさしてもらいました、この比率がおかしいんじゃないかと。事業そのものではなくて、財源のコロナ資金と基金を取り崩すこの比率が悪いんじゃないかと。というのが、先ほど答弁があった換金率の問題からすると、もう少しコロナ資金をここに当て込んで財調、いわゆる預金を少なくしていいんじゃないかっていうことを言いました。もちろんこれはゼロでないほうがいいのは私も知ってます。それは、換金率によって財調がクッションの役割してコロナ資金を全額使うという、そういうテクニックの中では、基金をある程度はつぎ込んだほうがいいというのはもう分かります。だけど、この比率のこと言いました。そのときに、総務課長の答弁は、幅広く事業を行いたい、いわゆるここにこれだけ、ここにこれだけ、ここにこれだけで少しずつでもいいからコロナ資金を使つての事業を多くしたい、そのために少しずつ基金をして財調を入れるんだという答弁でありました。ほんで今回も財調が入ってます、204万円。これも先ほどのクッションのことからいえば当然あっていいんですが、だけど、私がここで疑問と思うのは、この1万円の商品券っていうのが、私たちが賛成して通したので事業そのものが悪いとは思ってません。しかし、今回がこれに上乗せをするっていうところが、私はさっきの答弁で幅広くいろんなものの手だてにしたいということからすると外れるんじゃないかなと。今回コロナ資金を使うにしても、何かほかの事業がなかったのかと私は思うのです。現実には、私は一般質問で、水道料金の減免にしませんかということも言いました。そのときには、本町は77%の加入率で100%でないので公平に還元ができないという答弁で、私は一般質問はほかのことがあったのでこの77%にこだわりなく、それはある程度スルーをしました。でも町長、この間岸田総理大臣が、国会が終わったときか途中か分かりませんが、このたびのコロナ資金で水道料金の減免に充てた自治体があったと、私は大いに評価するとまで個別に言ってらっしゃったんだ。だから、本当にいい制度だと思うんです。それで、私は77%のことがあるのでそのときは言いませんでしたけど、基本料金は本町1,250円ですよ、これを入れる人も入らん人も一律減額したらいいんですよ、そしたら公平になります。方法は幾らでもあるんです、応援の仕方は幾らでもある、事業は多いほうがいいと私は思うんですが、町長どう思いますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） たくさんの内容でしたので、財源交付金と一般財源の比率の関係につきましては、これは基本的に総務課長のほうってことですか。

私のほうには、この1万円に上乗せする5,000円、ほかにいろんな、どういうんですか、経済対策であったり、誰一人取り残さない、そういった観点での事業っていうものが考えられな

かったかっていうことをございますけれども、今お話を聞いておりますと、まず前段で6月定例会に、このコロナの交付金を財源にしたいろいろな予算、事業を御提案させていただきました。

18歳以下の子供さんの医療費の無償化であるとか、学校の教材費の無償化であるとか、いろいろなこの財源を有効に使わせていただいて、日野町の将来を担う子育て、そして移住定住に結びついていく、結びついてほしい、そういった事業いろいろ御提案させてお認めいただいたところをございます。そういった中で、修正動議が生まれて、DXにつきましてはもう少し時間をかけて、今々の優先度からすると、もう少し住民の考え方、住民の方の今々の暮らしを反映したものをすべきではないかっていうような御意見をいただいたところをございます。それを十分踏まえて、さらには先ほども申しましたけど、全ての課の課長、それぞれの分野の指揮官に集まってもらって、どういう工夫、どうやって住民の方、地域の暮らしを支えるためにはどういうことができるのかっていうような議論をさせていただいて、今、御提案の予算を編成したところをございます。私のほうからの説明は以上をございます。

○議長（小谷 博徳君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 安達議員の一般財源を充てる関係のお話の答弁のほうさしていただきたいと思いますが、このたび提案しております日野町暮らし応援商品券につきましては、先ほどから町長が申し上げておりますとおり、地域の暮らしを守る、支えるということを主眼に置き、今回の新型コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金を財源として活用しながら、一般財源を一部充当させていただいております。町といたしましては、交付金は活用しながら、今、これも町長が先ほど申しましたが、日々状況が変わる中いろんなものが値上げがされるということが報道等でも流れて、日々状況変わっております。町としましては、コロナ交付金を活用しながらでも一般財源を充てていって事業を行っていきたいということで提案しております。

それと、この交付金ですが、当初予算、あとこれまでの補正予算で様々な事業を計上させていただいて、認めていただいて充当させていただいておるといところでございます。予算の組み方としましては、皆様に活用していただけるよう最大限に事業費を組んでおります。事業実施におきましては、その事業の中で請負減や実績の減も見込まれてくるところをございます。最終的な決算では、これらの様々な事業の中でも予算枠いっぱいということではなく、事業精査の中で若干予算のほうに余るといことは想定いたしております。ということで、この交付金今まで上げさせていただいておりますが、余すところなく使いながら一般財源はなるべく減らしていけるように、事業を進めながら事業効果が出るように取り組んでまいりたいというふうに思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 総務課長、6月の答弁で、幅広くこのコロナの交付金使うという答弁があったのに、今回5,000円の上乗せで外れはしないかという部分の答弁がちょっと足らんです。

（発言する者あり）

景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 幅広くという部分でございますが、幅広くにつきましては、基本6月の定例会で提案させていただいて、承認いただいているところでございます。課の中で、先ほど町長申しましたが、管理職の会を開きまして、この今の時期に何が必要かという議論をさせていただいて、今回提案しております商品券がまず今は必要だということで、今臨時会のほうで提案させていただくとということでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 総務課長、もう1点。換金率を基にやったほうがいいじゃないか、一般財源も入れるのは全部使うという部分じゃ理解ができるけど、そこら辺はええかいね、答弁は今の。（発言する者あり）いいですか。

○議員（7番 安達 幸博君） 答弁は変わらなかったのでいいんだけど、もう一つね、国の申請の分で私が。

○議長（小谷 博徳君） 国の申請の時期な。

○議員（7番 安達 幸博君） 申し上げたのが正しいかどうかいうのを。（発言する者あり）

○議長（小谷 博徳君） ええかいな。

神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 議員御指摘の件につきましては、もう一回、通達のほう読んで確認をさせていただきたいと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 4月1日の通達です、しっかりと読み取ってください。だから、そういうのは読み取って、やっぱりこういう場で発言をしないといけませんよというのを指摘します。新米課長、新米といえどもベテランですので失礼な言い方かもしれないけれども、やっぱりどんな質問が出てくるか分からないので、あらゆるところにちゃんとアンテナ張ってってください。

じゃあ、ちょっと違う視点で、もう一回しか質問ができませんのでね。

○議長（小谷 博徳君） これが最後です。

○議員（7番 安達 幸博君） これが最後だと思うんで。

6月のこの1万円のときには、8月中に発行する、8月のいつかって質問したら、なるべく上

旬にっていう答弁だったんです。明快に8月1日からしますということはなかったけども、8月の上旬からですっていうようなことだった。それで今回、昨日の全協で、その発行時期はいつからですか言うたら、今度は中旬にずれてるんです、中旬が発行です。これの2週間っていうのは大きいと私は思うんです。というのは、盆で支出も多い時期、年金月であるということ、15日に年金が下りる。とすると、この商品券のもらって喜ぶ価値っていうのは、やっぱり8月1日にもらうっていうのがすごく今の御時世に合った制度だと思うんですが、これ2週間ずれたのは、本当は6月定例会が終わったら、議会が通ったわけですのですぐ発注の段取りもできたと思うんです、私は。そうすると、8月1日あるいは上旬という意味に間に合ったのかもしれない。しかし、今残った1, 293万円否決になったんで何に使おうかって協議したら、何も課長のほうから意見が出なかったんで、今の時期としては物価も上がるのでこれに上乘せしたほうがよろしかろうっていう、これはそう思われたんなら思われたんでいいんです。私も、もともと1万円の商品券等は賛成してるのでこの事業そのものを否定するつもりはないけれども、問題はこの5,000円を上乘せをするかどうかっていうところにクエスチョンが、先ほど言いましたようにそのまま1万円だったらここまで、今日をもって発注をかけないといけないというこのずれが、私は開始の2週間のずれにつながってきとるんじゃないかなと思うんです、時間的な要領をしても多分当然そうだろうと思う。これは、やっぱりする上では、いろんなところに気配りをして私はしてほしいと思うんです。だからこそ、先ほど言いましたような水道の1,250円基本料金を4か月減免します言ったら、4,800、5,000円近いですよ。これだったら、減免だから、今までの請求書に基本料金をゼロ円にすればいいだけの話だ。77%以外の23%の人には、あるいは現金振込をすればいい話、これも一つの同じ時期の出費を抑える経済対策ですよ。だから、そういうことを考えると、方法は幾らでもあったんじゃないかなと思うんです。そこで、中旬になった原因は、やっぱり本日まで待った、待つということが大きな要因ですか。これで最後にします。

○議長（小谷 博徳君） 五百川課長、ええか。

五百川産業振興課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の質問にお答えいたします。

交付時期を8月中旬にずれた理由でございますが、議員御指摘の部分もでございます。印刷等、あと検品作業を一括でさせていただきたいということがございまして、8月中旬ということで交付がずれたものでございます。しかしながら、議員の御指摘も踏まえまして、速やかにこの交付にたどり着けるように担当課、また関係機関、商工会様等と連携しながら発行できるように、高

い緊張感を持って努めていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） ずれた理由は、今回延びたからかといってというのは今の答弁でええだかいな。（「ないとは言えない」と呼ぶ者あり）ないとは……。

ほかにありませんか。

〔質疑なし〕

○議長（小谷 博徳君） 質疑がないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

討論がないようですので……。4番、討論ですか。

○議員（4番 松尾 信孝君） はい。

○議長（小谷 博徳君） 賛成ですか、反対ですか。

○議員（4番 松尾 信孝君） 反対でございます。

○議長（小谷 博徳君） 討論があるようですので、討論を行います。

最初に、原案に反対の討論を行います。

4番、松尾信孝議員。

○議員（4番 松尾 信孝君） 私は、今回の補正予算の部分について、反対の討論をいたします。

もちろん、この商品券っていうのは先般の6月議会でも私たちは承認をいたしました。それは、皆さんの暮らしに役立つものであるということは十分に理解した上で、本日はさらに上乗せの5,000円、1人当たり5,000円という部分が提案されておりますが、私はこの上乗せ部分が非常に、あまり時間的な、一つはせっぱ詰まってるというようなこともあったとは思んですけど、ある意味安直に考えた上乗せではないのかというような気がするんですね。例えば、だからもっと幅広いいろんな使い方って、6月でもこのコロナ関連の給付金についてももっともったろんなことが使いたかったんだけど、だけどということで落ちた事案もあるんじゃないかと推測はするんですけど、そういうものに対してが出てこなかった。ただ単に、非常に安直に1万円に対して、取りあえず国の補助金があるから上乗せして1万5,000円にしようというような印象は否めないんですよね。そのような、ある意味で安直な上乗せというものを我々本当に地方議会というものが、もちろん町民の皆さんに少しでも、そりゃ1,000円でも2,000円でも上乗せすれば役立つということはよく分かるんですけど、その考え方について私は否定するものじゃないんですけど、そこを何か思考がそこまでされた上で、これが5,000円乗ってきてるかについて、今までの説明ではいま一つ理解できなかったですね。そういうような政策に本当に私たち地方議会が地方議員として乗っかっていいのかという部分が一つある。

実は、折しもさきの6月議会で本議会は、地方財政の充実を求める意見書ってこういうものも提出して、全員の賛成を得てるわけですね。そういう意味では、私たちも、やっぱり地方の財政を充実するというを国に求める以上は、地方財政っていうものもやはり私たち、自分たちの襟を正す意味でもきちんと、何ていいますか、ちょっと言い過ぎかもしれないけどモラルハザードっていいますか、そういうことを配慮しながらやっぱり私たちはお金を使っていかなきゃいけない。元はといえば、国の補助金といえども私たちの税金なんですよね、元は。そういうもののやっぱり使い方って、地方もやっぱりよく考えなければいけないんじゃないのかと。例えばの話が、こういうこの少し国の補助金が残りました、それだったらもう少し、例えばDXのところで言われてました万歩計を配るとか、これ500円取って配るとかっていうようなことも載っ取りました、案の中に。これ万歩計を皆さんに配ってとか、それとか、いわゆる血中酸素濃度測定器、これコロナに感染してるかどうかっていうの分かるようなパルスオキシメーター、こういうものを配るとか、そういう直接的な使い方もあるんじゃないかというような気がする、長くなりました。いずれにしても、私は、ちょっとあまりにも今回のこの5,000円の上乗せっていうのが安直過ぎるような気がして、反対の討論といたします。

○議長（小谷 博徳君） 次に、原案に賛成の討論を行います。

5番、中原信男議員。

○議員（5番 中原 信男君） 私は、令和4年度日野町一般会計補正予算（第3号）につきまして、議案第38号ですか、このことにつきまして賛成の討論をいたします。

まさしく、この予算は町長の提案説明の中にありましたように、原油高、あるいは食料品の高騰、そして現在の経済状況を鑑みて町長は提案しましたという説明をされました。そして、なおかつ地域を守るんだという力強い言葉をいただきました。本当にそのことは、町民の今の現在の状況を鑑みたときに、年金のことも言われました、今やるべきだということを表明されました。私は、この町長の提案説明にこの議案の予算の集大成が込められていると思いました。以上のような観点で、この予算は、日野町の町民全員に及ぶ本当にいい予算ではないかなと思っております。以上の観点で、この議案第38号に対して、賛成の討論といたします。終わります。

○議長（小谷 博徳君） 続いて、原案に反対の討論ありませんか。

7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 本提出の議案について、反対の立場で討論をさせていただきます。

前回6月定例会も含めて、この件についての質問も、私の疑問点もぶつけてまいりました。そのことの、あるいは修正であるとか、あるいはここは、あ、そうだねって受け止めるというよう

な姿勢が全く見受けられません。今回も同じように上乘せをするという、これに対しては、先ほどあの質問の中にも申し上げましたが、1万円の商品券については私も賛成をしておりますので、事業そのものには本当に商品券っていうのはいいと思ってます。しかし、5,000円の上乗せっていう部分は、ほかの方法でも町民の応援のものはあるのではないかと、幅広くいろんな事業で応援をしますというものが全く、その指摘もしたけど見受けられなかった。それは、その日のうちに課長会があって、何も意見が出なかったからこれにしましたっていうようなことがあったけど、私はそんなはずはないと思ってます。今回6月の定例会で、各課から全部持ち上げられて、全部、100%採択されたとは思ってません。それぞれ課長さんだっているいろんな思いが多分あるはず、そういうものが出なかったのか、出にくい状況だったのかは分かりません。しかし、ほかの事業を考えてくださいよということを6月にも言いましたので、今回も先ほど例挙げました、水道の減免でもいいのではないかと。私はそういう、違う視点で町民に応援しますよっていうものがあってもいいということも指摘してきて、それが受け入れてないということに対して反対をさせていただきます。そして、これはまだ締切りはまだ先にあるわけで、返還するようなことは起きません。ぜひともそういう視点で執行部も臨んでほしいと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 次に、原案に賛成の討論ありませんか。

8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 私は、これに賛成の立場から討論します。

もともとこのコロナ対応のこういう交付金というのは、本来、国が中心になって事細かくやるべきでありますし、そもそもこういう経済対策というのは一つの小さな町でできるものではないとこの間常々思っております。じゃあ、ほんならどうするのかというときに、国がこういう形で選挙前に下ろしてくるやり方というのが常態化しておりますけれども、私は一つの町では本来決定的な効果は生まれないとは思っております。例えば、消費税などとの問題を解決しながらやらないと大きな意味はなさない。そういう中であっても、一つ一つ住民の苦難を取り除くということをやらないといけないのが我々の仕事だとすると、やはり前回から、6月定例会のときにも示されたように、少しずつ行っている、それから、そういう態度は地方自治体にとって重要な役割だと思います。その上で考えておかなきゃならないのは、確かに予算編成の、国の予算に対して財調どれだけ使うかという問題はあります。しかし、これは予算編成の中で執行部サイドも十分私は検討されていると思っております。それは、基本的にはまた、いわゆる余裕の部分というのは財調に返すこともできるわけですから、余さずこういう対策を打っていくということは、今追い詰められている町民にとっては非常に深刻な問題でありますので、これは実行すべきだとい

う立場から賛成をいたします。

○議長（小谷 博徳君） 原案に反対の討論ありませんか。

〔討論なし〕

○議長（小谷 博徳君） ないようですので、これで討論を終わります。

これより、日程第3、議案第38号、令和4年度日野町一般会計補正予算（第3号）の採決を行います。

この採決は、起立によって行います。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（小谷 博徳君） 起立多数。よって、議案第38号は、原案のとおり可決されました。

○議長（小谷 博徳君） お諮りいたします。以上で本臨時会に付議された事件は全て議了いたしました。よって、会議規則第7条の規定により閉会いたしたいと思っております。これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 異議なしと認めます。

以上で令和4年第6回日野町議会臨時会を閉会いたします。御協力ありがとうございました。

午前10時52分閉会
